

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

選択式 (用語・地名の選択, 統計判定), 記述式, 論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問5題。選択式・記述式の解答個数は29で、昨年(25)に比べやや増加した。論述式では、字数指定のあるものが13問(昨年は9問)で、総字数470字(昨年は420字)、字数指定のないものは7問(解答枠1行、昨年は解答枠1行が4問、2行が2問)で、論述式全体の字数は昨年と比べやや増加した。大問ごとにみると、字数指定問題が、Iで3問(120字)、IIで4問(140字)、IIIで1問(40字)、IVで3問(110字)、Vで2問(60字)。字数指定のないものは、Iで2問、IIIで1問、Vで4問となっている。字数指定問題の1問当たり字数は、最短20字、最長50字だった。難易度は、大問間でかなり差があるが、全体ではほぼ前年並みである。

出題の特徴

Iが社会、IIが地誌、IIIが産業からの出題、IVは環境問題、Vは地形図読図という構成で、例年はIで出題される地形図読図が本年度はVにおかれた。読図問題以外でも、図表の読み取りを求める設問が多く、本年度もすべての大問で地図や統計表、グラフなどが使用された。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

本年度は大問5題の構成となったが、4題が標準の本学では過去に例がない。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択式 記述式 論述式	人口	4か国の年齢別構成グラフ, 女性就業率グラフ。国名判定のほか, 論述は(2)少子化対策(40字), (3)南北イタリアの女性就業率の違い(40字), (4)日本の女性就業率低下の理由(40字)など。	標準
II	記述式 論述式	河川流域の地誌	ライン川, ドナウ川, メコン川流域。地図。地形名, 国名記述のほか, 論述は(1)国際河川(40字), (3)パークアンドライドの目的(20字), (4)ユーゴスラビア連邦崩壊の理由, (5)メコンデルタの気候(30字)。(4)の理由では, 連邦制の解体をポイントにした文を書けばよい。	標準
III	記述式 論述式	農業	農業形態に関するリード文, 綿花の生産・貿易統計。リード文の空欄補充(用語), 統計判定などの選択, 記述。論述は(3)アラル海の環境問題(40字)と天然ゴム栽培地の気候(無指定)。	易
IV	記述式 論述式	環境問題	大気汚染に関するリード文, 硫黄酸化物降下量国別統計, 北京のPM2.5発生源別グラフ。空欄補充, 用語記述のほか, 論述は(3)ヨーロッパの越境汚染の理由(40字), (4)アブラヤシの加工と用途(30字), (5)北京の大気汚染対策(40字)。(5)では石炭消費規制とモータリゼーションの進展について触れる。	やや易
V	論述式	地形図の読図	長野県御嶽山東麓の5万分の1地形図(新, 旧)。全問論述式(字数指定2問, 無指定4問)で, (1)古い集落が立地する地形, 農地の特徴, (2)植林による土地利用の変化(30字), (3)保養地の特色(30字)。(1)の集落が立地する地形は, 問題文に御嶽山とあることから考える。(2)は林業地, (3)は別荘地を読み取ることがポイント。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を利用した基本知識（地名や用語）の蓄積は当然だが、論述式への対応として、基本的な地理用語の語義、自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて、簡潔に（20字～100字程度）ポイントを絞って書く練習を繰り返すことが必要である。加えて、地形図や統計図表の読み取りなど地理的技能や思考力を試す出題が多く、難問もあるので、日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。なお、「産業構造とその変化」や「都市・人口・交通」のように出題頻度の非常に高いテーマもある。過去問を研究して確かめておこう。